



原点 に立って、 未来 へステップ

2015-2016 年度
東日本区理事通信
第 6 号
2015年12月5日発行

■今月の強調目標 EMC/MC

理事メッセージ 東日本区理事 渡辺 隆

今年もわずかになりました。四季がわかりづらいこの頃です。札幌では60数年ぶりの大雪と報道されています。東日本区最北の北見クラブの気温予報は摂氏3度ー氷点下2度です。最南の湘南・沖縄部の沖縄地区の気温予報は摂氏25度ー摂氏17度との事です。気候に合った地域それぞれの生活様式があるように、ワイズの活動方法もそれぞれ違いがあつて良いのではと感じます。

区役員の皆様のご協力をいただき、第2回役員会を開催することが出来ました。信越妙高クラブ10周年(11/14)、伊東クラブ40周年(11/22)の記念例会が盛大に開催されました。そして、メネット委員会主催の「東日本区メネットのつどい」(11/28)も開催されました。

部会では部長が掲げた方針の経過など、研修を含め、大いに会員の皆様は学ばれたことと思います。これからは年度計画の達成に向けた活動と会員同士の親睦を深める新年に向けた楽しいプログラム、また周年事業を計画しているクラブが多いことと思います。楽し

い仲間と「ワイズの信条」のもと、活発な奉仕を願っています。

今月は「E(Extension-クラブ拡張)M(Membership-会員増強)C(Conservation-会員の維持養育)」の中のMC月間です。東日本区クラブ運営マニュアルに次のように書かれています。

「会員増強(M)」はクラブが力強く活動を続けるためには、大勢の会員が必要です。新しい会員を獲得するためには、クラブに絶えず新鮮な魅力と生き活きとした交流が必要です。新規会員獲得のためには一人が一人を紹介するプログラムを実施しよう。

「会員の維持養育(C)」は例会出席率を高めることはクラブの維持・発展に不可欠です。会員の脱落は例会の欠席となって現れます。欠席者に対するフォローは、新会員の獲得と同じように難しいことですが必ず行いましょう。

このようにEMC活動はワイズ活動の根幹をなすもので、すべてのワイズメンは必ず実現に向けた努力と結果が必要とされています。東日本区スタート時の1,246名に向けて、ご協力をお願いします。

強調目標

12月MC強調月間に寄せて

会員増強事業主任 池田 直文

今年度、902名という厳しいスタートでしたが、各部、各クラブで努力していただきまして、もう少しで950名が見えるところまで来ています。一人一人が意識を持って新会員を獲得し、クラブに於ける自分を見つめていただきたいと思います。

さて、本年度はインビテーションキャンペーンを12月で一旦締めて、如何にして入会に結びついているか検証したいと思っております。その結果をまとめてメンバーの皆様と共有して今後につなげたいと思います。

何としても会員減少に歯止めをかけ、1,000名の大台に届くように皆で頑張っていきましょう。また、(仮称)石巻広域クラブ、(仮称)多摩センタークラブにもご協力をお願い致します。

会員増強

新クラブ設立の胎動

2 地区で準備会始まる

▼(仮称)多摩センタークラブ第1回準備会

11月18日(水)、東京都多摩市の桜美林大学多摩アカデミーヒルズ4階「花水木」において、第1回準備会が開催されました。ゲスト(会員候補者)10名、東新部・あずさ部のワイズメン15名が出席し、和気あいまいの雰囲気盛会裡に開催することができました。

準備会は原則第3水曜日に同所で開催して行く予定(12月は16日)で、5月18日(水)に設立総会を予定しています。新会員の紹介等お問い合わせは、伊藤幾夫・新クラブ設立準備委員長(東京コスモス)まで。

▼(仮称)石巻広域クラブ第1回仮例会

11月28日(土)、石巻市のYMCA石巻支援センターにおいて、第1回準備例会が開催されました。これまでは設立準備委員会でしたが、初めて例会形式を採用し、開会点鐘、ワイズソング、ニコニコ、YMCAの歌等、ワイズの例会の雰囲気を出しました。

卓話は、田中博之直前理事が「ワイズ、何？ 何故？ どうやって？」と題して、ワイズを知らない人でも分かりやすくパワーポイントを使いながらワイズについて解説しました。

出席者は、会員候補者10名、ワイズメン7名、仙台YMCA・村井総主事、東京YMCA石巻センターの伊藤剛土さんの計19名でした。

書記報告

第2回東日本区役員会報告

書記 仙洞田安宏

今年度の第2回役員会が11月7日(土)、東京YMCA社会体育・保育専門学校で開催されました。

議案審議においては、以下の議案が審議され、いずれも承認されました。

- ①2015-2016年度第1回東日本区役員会議事録承認の件
- ②2014-2015年度東日本区会計決算および監査報告の件
- ③第18回東日本区大会決算報告および余剰金の扱いについて一余剰金は、東日本区東日本大震災支援募金に50,000円、東日本区経常会計に67,961円寄付する。
- ④2016-2017年度東日本区役員承認の件

⑤東日本区ヤングメンバーに対する区費補助制度の廃止の件

また今年度取り入れた「協議」では以下の案件を協議しました。

- ①東日本大震災支援の今後の在り方について
- ②プルタブ収集事業の扱いについて
- ③休会制度の評価

以上の案件について活発に意見交換されました。東日本大震災支援については、東日本区の支援金残高が減少しているため、被災地YMCAへ一括移管したいという提案に対して、賛否両論が出され、引き続き次回役員会で協議することになりました。

この他、次年度が東西日本区発足20周年となることから、記念事業の検討チームを発足した報告等がありました。



2クラブが周年記念で入会式

▼伊東クラブ 40周年記念例会

伊東クラブ(榎本博会長)の40周年記念例会が11月22日(日)、伊東市内のダンコーエン・ボウルとホテル暖香園で開催されました。佃弘巳・伊東市長、内山義夫・市教育長や市内ロータリー、ライオンズ、青年会議所の代表、東日本区内外のクラブから178人が出席し、節目の年を祝いました。

開会直後の「ウエルカム・ハーモニー」で「みかんの花咲く丘」「赤とんぼ」を披露した伊東市少年少女合唱団に助成金を贈ったほか、40周年記念事業として市青少年キャンプ場に管理棟1棟を設置し寄贈しました。

記念表彰も行い、キャンプ教室に長年にわたり協力している(株)ワイルド・スポーツクラブと、チャーターメンバー5人、在籍20年以上の4人に感謝を込めて表彰状や盾を贈りました。

また、金子正樹さんと菊間俊夫さんの入会式もおこなわれ、これで伊東クラブは今期4人の新入会員を迎えることになりました。

会場をホテルに移しての祝宴では、伊東芸妓衆の舞踊やバンド演奏、福引きなど盛りだくさんのプログラムで懇親を深めました。



▼信越妙高 10周年記念例会報告

東新部会員増強事業主査
太田 勝人(東京世田谷)

11/14(土)16:30より東京YMCA妙高高原ロッジにおいて40名の方々が集い、「信越妙高クラブ10周年」を祝いました。福澤系司会長の開会点鐘とワイズソング斉唱で記念例会が始まり、渡辺東日本区理事の挨拶、伊丹東新部部長による10年前のクラブ開設に至るまでの努力や裏話(特に星野達雄さんによる努力や吉田紘子さんによる支援)等心温まる挨拶を頂きました。更に、10周年記念例会に“華を添える”形で地元の旭郵便局長に昇格されたばかりの「村上綾子」さんの入会式を持つことができ、会長から入会式文を読み上げ、ご本人が入会の宣誓をすると、参加者全員が万雷の拍手をもって、入会を祝しました。これで同クラブは会員が8名となりました。

第1部の式典を終えて、第2部は田中直前理事による励ましと「乾杯」の音頭でもって夕食会となり、会員どうしの交流へと発展していきました。

その上に、妙高郷土伝統芸能である“須弥山太鼓保存会”による勇壮にしてボディー全体に響く演奏を聞かせていただきました。その中には、福澤会長のメネットが演奏に加わり、小2の可愛い池田さんの見事なバチさばきに全員拍手を惜しみませんでした。

第2部が終わっても大方の皆さんは中2階に集まって「懇親会」を持ち、ワイズ発展の為の意見を闘わしていたのが印象的でした。

信越妙高クラブの皆さん、次の20周年に向かって全員のベクトルを結束して発展に努めていって下さい。また当日駆けつけて下さった長野クラブの森本会長以下皆さん、来年6月に開催する第19回東日本区大会のアップールと共に、本当に有り難うございました。



子どもたちに元気を! 2つのサッカー大会

▼ 2015被災地小学生サッカー交流 &ユースリーダーズアクト

北東部部長・大会会長 中川典幸(仙台)

去る11月21日・22日に東北学院大学泉キャンパスで第3回目の被災地小学生サッカー交流&ユースリーダーズアクトが開催されました。(リーダーズアクトの報告は別記参照)

サッカー交流では、招待チーム3チーム(気仙沼「鹿折」・石巻市「湊少年団」・名取市「閑上少年団」)を招き、仙台YMCAのサッカークラブ6チームを加えて9チームで開催され、優勝は鹿折チーム、準優勝閑上少年団チーム、3位、仙台YMCA立町CIチームとなり、大歓声のもと終了することが出来ました。これも東日本区をはじめ、全国のワイズメン、YMCA関係者の協力とご尽力のおかげで出来ましたことを御礼申し上げます。



▼第4回盛岡YMCAチャンピオンズカップ

盛岡YMCAふらいむたいむ前潟校センター長 浅沼 慧

11月3日晴天のもと、岩手県立大学グラウンドを会場に、第4回盛岡YMCAチャンピオンズカップが行われました。チャンピオンズカップとは、盛岡YMCAが行っている、8つのサッカースクールに通っている子どもたちが、サッカースクール対抗で試合を行うというものです。

ドリブルやパス、シュートなどのサッカーの技術は勿論ですが、「ドンマイ」や「ナイスパス」「サンキュー」などの声掛けからも、普段のサッカースクールで何を大切にしているのかが伝わってきました。

また、今年度は初めて宮古サッカースクールの子どもたちも参加し、たくさん走り回り、たくさんの笑顔を見せていま



した。普段は短い時間で思い切り楽しんでいますが、今回は普段よりも多くの子どもたちと、長い時間サッカーができ、たくさん試合が出来るということもあり、普段のサッカースクールの時間以上に頑張る姿が見られました。

更に、初めて得点をあげた時と大会全体のMVPを宮古スクールの子がもらった時の会場の盛り上がりと一体感、とても素晴らしいものでした。

これからも、より多くの子どもたちの笑顔と頑張る表情を支えていきたいと思えます。



北東部ユースリーダーズ・アクト 開催さる

北東部部長 中川典幸(仙台)

去る11月21日(土)に昨年、一昨年に続き3回目となる「北東部ユースリーダーズ・アクト」が、被災地少年サッカー交流と併せ、東北学院大学泉キャンパスにて開催された。

とちぎYMCAから5名(宇都宮2名、那須3名)仙台YMCAから3名のリーダー9名に、ワイズメン11名、仙台YMCAスタッフ4名、少年サッカー監督・コーチ6名が参加し、研修では少年サッカーの指導者から「子供たちの今」についての講話を聞き、三つのグループに別れ「みんなで考える防災」と題し、災害への備えと対策について考察を行った。

備えについては、大都市・都市部・海岸地域・山岳地域・町村地域とそれぞれの方策について考えが生まれ、とにかく命を守ることを一番に、逃げることはもちろん、どこに居ても安全な場所を常に意識しておくことの

大切さを認識しあった。

また、災害が発生した場合の備えへの最も大事なことは、平常時の近隣の方がたとの挨拶をはじめとする心の通ったコミュニケーションであり、小さなコミュニティでの防災訓練や懇親の場を持つことが一番ではないか、との集約になった。

その後、子供たちと合流し少年サッカー交流の開会式を行い、リーダー達は子供たちと泉キャンパスの合宿所にて宿泊、子供たちとの有意義な貴重な時を共に過ごし、翌22日(日)は、それぞれのチーム応援に別れ、各チームの子供たちとの更なる交流が持たれた。

▼2016・IYC(インターナショナルユースコンボケーション)

2016年8月1日から7日にかけて、台湾・台北市でIYCが開催されます。クラブ会長さん宛には推薦基準等の詳細と推薦書を案内致します。参加希望者の推薦は**来年1月10日**までとなっております。過去のIYCが交流を楽しもう、というものでしたが、今回はグローバルなことをしっかり議論しよう、という趣旨のようです。



「おいしく・楽しく・そして話し合い」 —第19回東日本区メネットのつどい開催

東日本区メネット委員会委員長
利根川恵子（川越）

11月28日（土）、晴天に恵まれた熱海（「ハートピア熱海」）で、「おいしく・楽しく・そして話し合い」をテーマとして、「メネットのつどい」が、賑やかに開催されました。

当日は、北海道部を除く6部の18クラブから総勢42名の参加がありました。竹内敏朗元国際会長、渡辺隆理事、久保田康正富士山部部長、栗本治郎次々期理事を筆頭に多くのワイズメンもご参加くださり、「ワイズメンとのよりよい協働を求めて」という委員長の活動方針を具現化した会となりました。

海の幸、山の幸の昼食を堪能したあとの懇談会では、竹内元国際会長（熱海グローリー）から、初めてアジアで開かれた熱海での国際大会（1975年）の実施にまつわご苦労話やその時のメネットの活躍ぶりなどが披露されました。さらに元メネット国際ディレクターの藤井祥子メネット（東京江東）からは、国際レベルでは、メネット会あるいはクラブがワイズメンズクラブの一部となっている形態と、独立したクラブとして存在している形態があることが指摘されました。日本、韓国、台湾などは前者で、後者はオーストラリア、アメリカ、カナダなどです。現在ワイズ国際協会が、「ワイズメネット・インターナショナル・マニュアル」で規定しているメネットは後者の形態ですが、東西日本区でもメネットのあり方が違うことを考えても、今、東日本区のメネットの組織をいきなり国際のいう独立したクラブへと持って行くのは難しいのではないかとのお考えでした。また、10年前、2年前とメネットの活動についてアンケート調査を行いな



がら、その結果が活かされていないこと、新しいクラブの設立時や新入会員の入会時にメネットについて十分な説明が行われていないことなどの問題点も指摘されました。

以上のようなお話に続き、参加者からは、「メネットとして、国際大会やいろいろな行事に参加することができ、視野が広がった」、「これまでのメネットの活動を何らかのかたちで引き継いでいきたい」等の意見が出され、形態はどうか、メネットとしての活動は続けたいというご希望が多めであったように思います。

今後、この懇談会の内容も参考にしながら、メネット事業の在り方についてさらに検討を続けてまいります。

懇談会終了後には、絶景の場所にあるMOA美術館に行き、海を眺め、紅葉を愛で、名画に感動することができました。このような素晴らしい場所と時間のアレンジに絶大なるご協力をいただきました、富士山部・熱海クラブ、熱海グローリークラブに心から感謝申し上げます。



東山荘100周年記念感謝礼拝 及びシンポジウムの報告

連絡主事 田尻忠邦

11月21日（土）に東山荘創立100周年記念感謝礼拝を実施いたしました。

第一部の感謝礼拝は、桑田隆明・東山荘運営委員長の司会、正野隆士・日本YMCA同盟会長の感謝祈祷、そして中道基夫牧師（神戸YMCA理事長・日本YMCA同盟理事）による「主が来られる」と題しての説教があり、78名が出席しました。

第二部の記念シンポジウムでは、スプリングフィールド大学のメーバス A クーパー学長に『大森兵蔵とカレッジのミッション』というテーマで講演をしていただきました。大森兵蔵は、スプリングフィールド国際YMCAトレーニングスクール（現在のスプリングフィールド大学）に留学し卒業後、東京YMCA体育部初代主事となり、1908年（明治41年）学生時代にアメリカで習得したバスケットボールとバレーボールを日本に初めて紹介した人物です。

講演に引き続き『YMCA東山荘のミッションー過去・現

在・未来』というテーマでパネルディスカッションが行われました。山田公平氏（前アジア・太平洋YMCA同盟総主事）「地球市民運動とYMCAの未来」、坂口順治氏（立教大学名誉教授）「社会的福音の視点から東山荘をみる」、島田茂氏（日本YMCA同盟総主事）「今後のYMCA東山荘」、以上3人のパネリストにそれぞれのテーマで発題をしていただきました。

▼「YMCAのイメージ」オンライン調査

YMCAではこの度、中期計画（2014-2016）の柱として、YMCAブランディング・プロジェクトをスタートしました。その一環としてオンライン調査を実施しております。

【実施期間】～12月14日（月）まで

【所要時間】10分程度

【対象】全国のYMCA関係者、スタッフ、講師、会員、メンバー、ユースリーダー、ワイズメン等

*アクセス先：<http://y.imgc.jp/>

*ID、パスワード等、本調査に関するお問い合わせ
日本YMCA同盟

info@ymcajapan.org 横山さん・佐々木さんまで。

国際交流

B F代表オーストラリアの旅

小山 久恵（東京サンライズ）

今回の旅程は、オーストラリアを縦、横半分の四分にした時、右下部分に当たる所を、10月5日から11月5日まで一ヶ月かけて周ってきました。先ず、シドニー近郊から1,000km離れたメルボルン近郊のジローンまで2日かけてドライブし、10日、11日に開かれたサウスパシフィック地域、オーストラリア区大会に参加しました。出席者55人、男性のほとんどが半ズボンにシャツという軽装。ラフな雰囲気でしたが、中身は濃く、何処かの会とは大違いで、眠っている人皆無。話が終わる度に大勢の人達が質問し、意見を述べていました。大会終了後は、車で2時間のベンディゴへ。その後、アララット、アデレード、ポートピリー、ブローケンヒルを訪れました。アララットからアデレードまではバスで8時間、最後のブローケンヒルからは14時間の鉄道の旅でシドニーに戻りました。野生のカンガルー、エミュー達に会い、国土の広さを実感しました。

サウスパシフィックにはオーストラリアと、今年6月にチャーターしたフィジー島のスパクラブが属しています。スパクラブは大学生だけで構成され、会議は持たず、フェイスブックで情報交換をし、若者の新しい活動形態として注目されています。オーストラリアは3つの部に分かれ、12クラブ、214人が在籍しています。ワイズメンと呼ぶなどともない、Yサービスクラブと呼んでいるところ、男性だけがメンバーで、ワイズメンと呼んでいるところがあります。同じクラブでありながら、男性と女性が完全に分かれていて、Yサービスマン、Yサービスイメンと称し、お互いに協力せず、それぞれ独自の



組織として活動しているクラブ、男女混合のクラブ、男性、女性分かれているが、活動はいつも協力しているクラブがあります。今回の私の立場は微妙で、女性でありながらワイズメンバーとして、男性のクラブに出席し、ウイメンクラブからも招待されました。

大会でも例会でも、ワイズソング斉唱、開会点鐘は一度もなく、食前の感謝をするクラブが幾つかあっただけでした。例会開始前にアルコールをガンガン飲み、食事をしてから例会という素敵なクラブもありました。CS活動は、ファンド作りのために、地域のイベントで、食べ物、飲み物、古本等を作り、収益金をYMCAや社会に寄付するというものです。身体を使っての奉仕より、お金を出すことが多いようです。また、その額が半端でないほどの巨額なのです。YMCAとの関係、会員増強、若者を入会させる手立て等を色々な場で話しました。状況は日本と似ています。

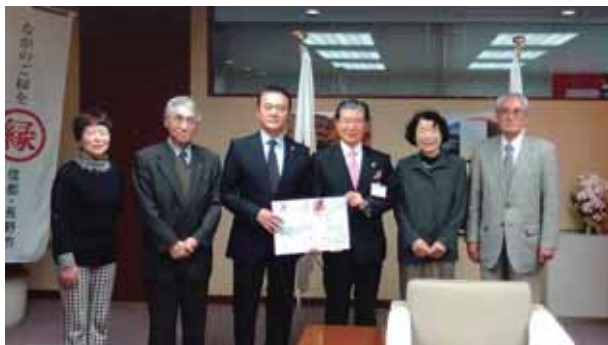
この旅で、雄大な自然、珍しい動物、家庭での夫達の働き、食事等を見てきました。人々の暖かいおもてなしを受け、新聞にも載りました。貴重な体験をさせて下さった方々に心から感謝致します。

PR

理事はトップセールスマン

長野市長を表敬訪問

11月18日(水)、長野市役所に加藤久雄市長を表敬訪問しました。長野クラブ森本俊子会長、元市長の塚田佐会員らが同行しました。来年の東日本区大会が長野市で開催されることから、その挨拶を兼ねてワイズメンズクラブそしてYMCAのPRと、RBM(ロールバックマラリア)の取り組みなどを紹介をしました。



会員増強

▼11月の新入会者紹介

☆古賀健一郎さん(横浜) ☆鈴木千代子さん(御殿場)
☆村上綾子さん(信越妙高) ☆金子正樹さん(伊東)
☆菊間俊夫さん(伊東)

お知らせ

理事事務局・東日本区事務所 からのお知らせ

▼2016-17 次期国際会長選挙

クラブ会長さんには、投票用紙と候補者のプロフィールを郵送済みです。国際会長の選挙権はクラブ会長のみと与えられています。投票期限は2016年1月29日となっていますが、極力12月中に済ませて下さい。

▼後期半年報

クラブ会長さんには、報告用紙を郵送済みです。2016年1月10日までに部長に提出して下さい。